

細田源吉

ほそだ げんきち

小説家、俳人。明治二十四年六月一日東京生れ。昭

和四十九年八月九日歿（六一―一九七四）。善好池田、筆名苑雪次郎。大

正四年早稻田大學文學部英文科卒。春陽堂に入り、雑誌『新小説』、

『中央文學』等の編輯に従事し、作家志として六年退社。十五年『又

藝行動』を創刊、次で勞農藝術家聯盟の、昭和八年には日本プロレタ

リア作家同盟の加盟し、翌年檢舉拘留せられ轉向。夙に俳句を能くし、

（二十八年）のゆ草會を興した。

譯著書『トマス・ストイ全集』（共譯、第五卷・大正八年二月五日、第十

二卷・十月十八日春秋社）、『死を待つ女』（大正九年八月一日新潮

社『新進作家叢書』）、『罪いさむ』（大正十一年一月二十八日新潮

社）、『存生』（大正十二年一月二十八日新潮社『中篇小説叢書』）、

『未亡人』（大正十二年一月二十八日新潮社）、『本心』（大正十四

年一月一日春陽堂）、『少年の頭・中巻』（合著・小野誠悟編、大正

十四年五月二十日第一出版協會『少年少女文學叢書』）、『大都（市

の傭人）』（大正十五年八月十五日新潮社）、『又藝講座・第一卷』

（合著・日本放送協會關東支部編、昭和二年四月十二日博日本ラヂオ協

會『ラヂオ講演』）、『女性の敵』（昭和九年九月五日中央公論社）、

『支那人街の團練』（昭和十四年二月

十一日八藝社）、勤王史劇『天上人諫言』（昭

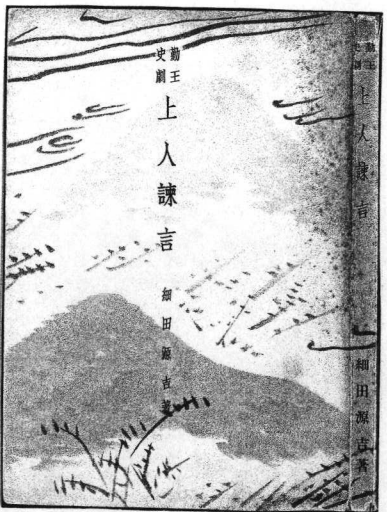
和十五年十一月二十日東京書房）、『人



生い答ふるの書』（昭

和十八年七月五日東

京書房）、『血は愛のよりの濃』（昭和十七年一



月刊「五百錦城出版社」、『盤詰國節傳』(昭和十七年十月十五日北海  
 出版社)、『一念』(昭和十八年八月十五日野野記書房「名作歴史又  
 學」)、『信念の書』(昭和十八年七月二十五日東京書房)、筆「風  
 流・第一輯』(合巻、昭和二十一年九月十日風流堂)、『未亡人』(改  
 稿、昭和二十一年九月二十日白聖書房)、『澤庵和尚』(昭和二十二  
 年十一月十日入叢社)、句集『松柏』(昭和四十二年十月十日)の草  
 会)等。

